

## 新発田税務署長賞

幸せな未来のために

新発田市立 豊浦中学校 3年 須戸 徠 夢 さん

先日、参議院選挙が行われた。その前日のニュースでは、各候補者がそれぞれの公約を掲げていく中、近頃は「消費税」などという話題がよく見られるようになった。多くの人々は「消費税ゼロ」や「所得税・住民税の減税」と聞くと、喜ばしいことだと思いかもしれないが、国や地方、国民にとって本当にそれはうれしいことなのだろうか。

ある時、学校で税理士の方から税について学ぶ機会があり、「税金はみんなが負担し、みんなが豊かに、健康に、文化的に安心して暮らせるようにするために必要で、教育や医療・介護、ごみの処理などの身近なところにも使われている」ということを学んだ。例えば教育の場面では、公立中学校の生徒一人あたりの年間教育費負担額は約 100 万円だがそこには約 98 万円の税金が使われている。もしも、これを自分の家族が全て支払ってくれていると考えたと、家族もかなり大変になってしまう。だから、税金はとも役に立っていて、大切なものだと思った。と、同時にニュースで見聞きした「減税」の内容が頭に思い浮かんだ。こんなにも様々なところでみんなの幸せのために役立っている税金を減らしたりしてしまってもいいのだろうか。また、日本の財政は、支出が税金などによる収入を上回っており、いわゆる「赤字」だということを耳にした。増税や支出を減らすなどの政策をしなければ「赤字」を「黒字」にすることは難しい。それなのに減税をしても私たち国民は困ることがないのか。これは、みんなで共に考えていかなくてはならない難しい問題かもしれない。

私たち国民は、消費税などの税を納める立場であり、これからも税を納めていく必要がある。だから、これからの自分たちの幸せな暮らしのために私たちは税についてもっと関心をもつべきだと思う。私は、「税金なんて私には関係ない」と思っていたが、税金は私たちの未来を創るものである。税金に対して興味を示し、考えをもつことが大切だということに気づいた。また、公平に税金を集め、使っていくためには話し合いに積極的に参加し、意見を交流したり、聴いたりすることが大切だ。近年は少子高齢化が進み、介護などを受ける高齢者が増え、税を納めていく世代が減っているため国民一人一人の負担が大きい。さらに、自然災害の発生も増加しており、その復興のために税金がますます必要になってきている。税金の問題は、これからもずっと続いていくが、私たちの意識によって解決できるのかもしれない。